

# ひがしはら

平成26年3月25日  
学校だより 第11号  
杉並区立東原中学校

## “進級おめでとう！！”

校長 渡辺 宏

連休が明け、ようやく春らしい日が続くようになりました。

先日行われました第63回卒業式では、春雨が降る中、70名の卒業生は、感動的な在校生合唱に見送られ、清々しい晴れやかな表情で本校を巣立って行きました。今年の卒業式も、当日ご出席いただいたご来賓や保護者の皆さまに、本校の伝統ともいえる文化に満足いただけたのではないのでしょうか。

今学期だけでも、「受験」、「スキー教室」、「学年末考査」、「企業や製菓学校より、講師をお招きしたキャリア教育」、「校内作品展」、「3・11を忘れない」等、どの学年も多くの行事をこなさなくてはならない中、3年生に感謝の気持ちを籠めて“最高の卒業式をつくろう”“卒業式を成功させよう”。このようなムードが学校の進むべき方向として定着できたのは、3学期半ば過ぎくらいではなかったでしょうか。

私は本校で培われてきた“感謝”“恩返し”“絆”“期待に応える”“最高の歌を捧げよう”の思いは、当日歌われた卒業生や在校生合唱にしっかり現れておりました。特に2年生は、全校練習翌日に、「このままではいけない。」との気持ちから、自主的に練習に取り組んだことを知った時や在校生合唱を聞いて感動したことは、長い教職生活の中でも初めて経験しました。

生徒の総意で作りに上げられた卒業式。代表生徒たちが伝えてくれた「わかれの言葉」は、3年間の思いの重さや1・2年生に対しての心配りを誠実に伝えてくれました。その思いやり言葉は、教職員、在校生、保護者、ご来賓の方々にとっても大きな感動を届けてくれました。あの日を迎えるにあたり、卒業生の皆さん一人一人が3年間という限られた時間の中、最高のチームワークをもって取り組んでくれた成果が、あのような素晴らしい卒業式になったのです。ありがとう！！

東原中学校の平成25年度は、生徒の皆さん一人一人の協力で大きな事故もなく、本日の修了式をもって全ての授業を終えることができましたが、社会では、「いじめ」や「体罰」により、尊い命を失ったり、多くの子どもたちの心が傷つく等の事故が多く報道されました。生徒一人一人が「自分らしく生きること」や「命の大切さ」を学び、将来に希望や夢を抱かせることが使命の学校において、報道されたことは決してあってはなりません。

さて、生徒の皆さん、本校に入学してから今日までを振り返ってみて、月日が経つのはとても早いでしょう。そう思いませんか？そして、中学生時代の3年間はとても短いものです。4月から2年生は3年生に、1年生は2年生へと、上の学年に進級します。そして、皆さんは一つずつ学年が上がることに合わせて、任される仕事が増え、責任が重くなってきます。また、4月からの新学期、東原中学校の生活に、夢をふくらませた新入生が入学してきます。

東原スピリットである“自由と責任”。一人一人の生徒がこの意味をしっかり受け止め、平成26年度も本校が“生徒にとって理想の学び舎”となるよう、「一人一人の生徒が自覚をもって、新たな歴史を積み重ね、一人一人の思いが実現する学校を創り上げて欲しい」と心から期待します。

### ☆平成26年度4月当初の予定について！

○始業式：4月7日（月）

○入学式：4月8日（火）